

ウ エ ル - ビ - イ ン グ
Well-being

いよいよ2学期が始まりました。9月1日、元気な皆さんと会えてとても嬉しく思っています。今回は、2学期始業式で話した内容を紹介します。2学期は、行事が多いときでもあります。2学期も、友人を思いやるあたたかな雰囲気、誰もが過ごしやすい翔南高校であることを切に願います。

<2学期始業式訓話より(一部)>

(略)今年の夏、注目を浴びたのは、やはり県立高校で唯一ベスト4に入った、県立岐阜商業高校ではないかと思えます。野球観戦していた人は知っていると思いますが、その中に生まれつき左指がない横山温人(はると)君という生徒がいました。彼の指は、手の甲ぐらいまではあっても、その先の指がありません。指がないので、ボールをつかむことができません。だから、指がある右手にグローブをはめます。右手でつかんだボールは左手では指がないので投げられませんから、グローブをさっと外し、右手にボールを持ち替えて投げます。(略)甲子園でも、得点に絡むヒットを何本も打ちました。ハンディを持ちながら、横山くんが甲子園に出場するまでになったのは、なぜでしょうか?

彼に夢を与えたのは、ジム・アボットという右手首より先が欠損している大リーガーの存在でした。同じような境遇の人が大リーガーとして活躍している、その姿に夢を見て、人一倍努力したその成果が甲子園出場でした。これまでの努力は、計り知れないものだと思います。それを成し遂げた横山君は尊敬に値し、多くの人に勇気を与えてくれました。諦めなければ夢は叶うことを教えてくれました。

そのような横山君ですが、彼は決して「人を感動させよう」と思って野球をやってきたわけではないと思います。自分の夢を追いかけ、自分にできることをただただ一生懸命頑張ってきた結果が、この活躍につながったものと思います。そしてまた、この横山君を支えてくれた家族や友だちの存在も忘れてはいけません。彼一人だったら、ここまでの活躍はできていなかったとも思います。

自分の夢を叶えようと努力しているひとを「ドリーマー」、そのドリーマーを支えよう、応援しようとする人を「サポーター」と言います。(略)皆さんには、夢を見るドリーマーであって欲しいし、ドリーマーを支えるサポーターでもあって欲しいと思います。ずっと、ドリーマー、ずっとサポーターではなく、時にはドリーマー、時にはサポーターであることが、豊かな人生につながるとは思いませんか。

日本語には、「持ちつ持たれつ」という素敵な言葉があります。お互いが助け合ったり、助けられたりする中で、どちらか一方に頼るのではなく、双方が支え合って、その関係が長く続いている状態を言います。

2学期は、行事が多い時期です。これから体育祭、文化祭、2年生はキャリア研修旅行もあります。集団で何かをするときには、リードする人とサポートする人が必要です。2学期は、行事が多いので、この「持ちつ持たれつ」を意識して過ごして欲しいと思います。

そうすれば、島原翔南高校は、みんなが過ごしやすく、ぬくもりのある集団になっていくと思います。皆さん一人ひとりがドリーマーであり、サポーターである2学期になるように、期待します。